

ている可能性も考えられるが、本調査では琵琶瀬川流域のみで調査期間を通して10羽以上が記録されたため、霧多布湿原ではアカアシシギの営巣数が増加傾向にある可能性も考えられる。今回の調査範囲外である、他の霧多布湿原の流域河川である一番川、二番川、泥川、新川の四河川の流域でもアカアシシギの繁殖が報告(青木ら2010・2011)されていることから、霧多布湿原全体での繁殖数はさらに多くなることも考えられる。

今後の課題として、霧多布湿原のアカアシシギの繁殖個体数の解明のため、今回未実施の範囲における繁殖調査が必要である。また、今回繁殖状況が明らかになった、琵琶瀬川流域のアカアシシギの繁殖数の推移を知るための継続的なモニタリング調査は、霧多布湿原の環境の変化を知る意味で今後も重要になると考える。この二つの調査が実施できれば、国内最大規模である霧多布湿原のアカアシシギの営巣地保護に繋がる貴重な資料となると考えている。

#### 謝辞

本調査にあたり、石毛千栄子、石毛良明、工藤吉治、三戸貞夫、宮彰男、古山隆の諸氏の協力のもと実施することができた。心より御礼申し上げます。

#### 参考文献

青木則幸・青木靖子・片岡義廣(2010)霧多布湿原におけるアカアシシギ*Tringa totanus*の生息状況および河川沿いの鳥類相 平成22年霧多布湿原学術研究助成事業 特定非営利活動法人エトピリカ基金

青木則幸・青木靖子・片岡義廣(2011)霧多布湿原におけるアカアシシギ*Tringa totanus*繁殖後期生息およびジュンサイ沼周辺の鳥類相 平成23年霧多布湿原学術研究助成事業 特定非営利活動法人エトピリカ基金

藤井薫・前沢卓・澤祐介・北沢宗大・清水孟彦・田村智恵子・徳永彩乃・河口真梨(2024)野付半島一本松地域でのアカアシシギの繁殖の可能性 NPO法人野付エコネットワーク, 標津町。

Heywood, J. J. N., Massimino, D., Balmer, D. E., Kelly, L., Marion, S., Noble, D. G., Pearce-Higgins, J. W., White, D. M., Woodcock, P., Wotton, S. Gillings, S. 2025. The Breeding Bird Survey 2024. BTO Research Report 765. British Trust for Ornithology, Thetford.

環境省(2020)【鳥類】環境省レッドリスト. 環境省

森岡弘之・高野伸二(1972)北海道で発見したアカアシシギの繁殖 日鳥学誌21:50-53

中村雅彦・中村登流(1995)原色日本野鳥生態図鑑:水鳥編. 保育社. 108-109.

日本鳥学会(2024)日本鳥類目録改訂第8版. 日本鳥学会, 東京.

Van Gils, J., Wiersma, P., and Kirwan, G. M. 2020. Common Redshank (*Tringatotanus*), version 1.0. in: del Hoyo, J., Elliott, A., Sargatal, J. Christie, D. A., and de Juana, W. (eds), *Birds of the World*. Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY, USA.

全国鳥類繁殖分布調査事務局(2015)全国鳥類繁殖分布調査調査マニュアル. 全国鳥類繁殖分布調査事務局, 府中市.

## 旧 二俣簡易郵便局前の郵便差出箱(1号)を受贈

石川 孝織\*

旧 二俣簡易郵便局(釧路市音別町)前の郵便ポストの更新に伴い、68年間にわたり使われてきた丸型郵便ポスト(1957年製)について、同局を管轄していた釧路西郵便局(渡部稜局長)より寄贈のお申し出をいただきました。

この丸型郵便ポストは「郵便差出箱1号(丸型)」が正式名称で、戦後間もなくの1949(昭和24)年に登場。その懐かしさを感じるデザインからも、郵便ポストの「代表」として幅広く認識されています。いっぽうで、新型への更新も進み、現在、釧路管内では2基のみ(フィッシャーマンズワーフ郵便局・標茶駅前)が使用されています。

二俣簡易郵便局は二俣郵便局として1922(大正11)年に開局、その後簡易郵便局となり、休止を経て2025(令和7)年12月1日に廃止となっています。なお、ポストは引き続き設置されています(新型に更新)。

2025年12月18日に搬入作業と寄贈セレモニーを実施、渡部局長からは「長年親しまれてきた可愛らしい丸型ポストを子どもたちにも知ってもらいたい。また、手書きでメッ

\*釧路市立博物館

セージを伝える手紙文化の良さにも思いを寄せていただけたら嬉しい。」などのご挨拶をいただきました。

風雪に耐えながら、人々の思いをその差出口から受け止め、全国・全世界への橋渡しをしてきた郵便ポスト。当初、再塗装を行うこともお申し出いただきましたが、あえてそのままの姿で収蔵することとしました。

2024年度の企画展「釧路の郵便150年」での成果とともに、郵便の歴史、また音別町地域の歴史を伝える資料として大切に保存していきます。

なお、ポストは博物館1階マンモスホールで展示しています(郵便物の差し出しはできません)。



受贈した丸型郵便ポストと  
渡部局長(左)、  
工藤幸栄生涯学習部長